

## 一人ひとりの自立をめざした学級づくり

### I 主題設定の理由

今の子どもたちが成人して社会で活躍するころには、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予想が困難な時代となっている。子どもたちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化している。

しかし、学校が抱える課題が複雑化・困難化しても、学校での「学び」の基本は、学級集団にあるといえる。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに、自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し、そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで、本部会では、一人ひとりが認められる学級づくりをめざして、「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度は、人権教育の推進についての学習を位置づけ、「一人ひとりの児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになる」という人権教育の視点も大切にしながら、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」を明らかにするための研究を行っていく。

### II 研究の内容

#### 1 研究の方法

- (1) 個人の実践や発表を共有し、研究討議を通して「自立をめざした学級づくりの手だて」について学びを深める。(発達段階を考慮し、低学年ブロック、高学年ブロックに分かれ、研究討議を行う。討議後は、両ブロック間の情報交流も行う。)
- (2) 講師を招き「子どもの権利条約」についての学習会を行う。
- (3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」についての学習を深める。

#### 2 研究の具体的内容

- (1) 第1回研究会 今年度の研究の方向性の確認
- (2) 第2回研究会 年間計画についての検討・確認  
学習会 テーマ「子どもの権利条約」の定着にむけて  
講師 山田睦子先生(教育総合センター指導主事)
- (3) 第3回研究会 実践発表Ⅰ(低ブロック4名・高ブロック4名)
  - ・学級力アンケートを活用した学級力向上の取組について
  - ・コロナ禍における学級づくりについて～スクールカウンセラーとの連携・メディア利用調査を生かして～
  - ・相手の考えを尊重し、対話から自分の考えを広げる授業実践について
  - ・集団意識を高める日常的な取組について
  - ・特別支援学級における自立をめざした学級活動について
  - ・子どもたちの達成感や成就感を大切にしたい学級経営について
  - ・自己肯定感を高める日常的な取組について

- (4) 第4回研究会 実践発表Ⅱ（低ブロック4名・高ブロック4名）
- ・目標設定シート（TryTryTryシート）を活用した取組について
  - ・低学年における学級力向上プロジェクトの実践について
  - ・子どもたちが成長を実感できる学級経営～コロナ禍における指導の工夫～
  - ・活動の見通しをもたせ、自身の変容や成長を振り返るキャリアパスポートの活用について
  - ・ドラッカーの理論を応用した学級経営論について
  - ・コロナ禍における児童会活動の工夫について
  - ・エンカウンター・クラス会議を取り入れた学級経営について
  - ・子どもたちの生活課題に即した指導について～ネット教室・SNSの使い方について～
- (5) 第5回研究会 統一授業研究会に向けた指導案検討会
- (6) 第6回研究会  
研究授業（事前録画）ビデオ視聴  
第3学年学級活動「学級みんなのために」＜学級活動（3）イ＞  
指導者 勝沼小学校 志村 多恵 教諭  
研究討議
- (7) 第7回研究会  
研究のまとめ（本年度の成果と課題について、来年度の研究の方向性について）

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

- ・例年とは違う課題に直面する中、実践発表による交流をしたことで、自らの学級づくりに生かす具体的な手だてを得ることができ、充実した学びとなった。
- ・低学年、高学年ブロックに分かれて実践報告をしたことにより、発達段階に応じた研究を深めることができた。
- ・中学校の先生方の部会所属により、異校種の指導や学習の実態を知ることができ、小・中の連携についての視点も得られ、幅広い学習が可能になった。
- ・「子どもの人権」についての学習会は、学級経営をしていく上で大切な内容であり、部員だけではなく、多くの先生方にも聞いていただきたいと感じる内容であった。
- ・研究授業を通して、「子ども自らがよりより学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について、多様な手だてを確認するとともに、日常実践における位置づけ、一単位時間における有効な取り入れ方について明らかにすることができた。
- ・研究授業を通し、目標をもって日々を過ごすこと、自分たちで自分の力を把握することが自治的な力をつけるためにも大切であることが実感できた。
- ・いつも温かい指導・助言をいただいたことで、意見交流を活発に行うことができた。部会員の意欲的な姿勢により、研究を深めることができた。

#### 2 課題

- ・研究のまとめの年となる本年度、実践の持ち寄り、研究授業によって「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」が学校教育全般に関わるものであることを確認し、学級づくりのための様々な具体的な手だてを得、効果的な位置づけも学ぶことができた。新しいサイクルの1年目となる来年度は、「クラス会議」「グループワークトレーニング」「エンカウンター」などの学級づくりのための手だての学習・演習に取り組む学びの年と位置付け、研究を深めていきたい。

（部長 堀井ますみ）